

教員養成に係る教職科目担当教員（専任）の経歴・専門分野・研究業績等

雨宮 和輝

職名・役職名	専任講師
学 位	教育学修士（早稲田大学）
略 歴	2016年～2018年：早稲田大学教育学部教育学科教育学専修 助手、2020年～2024年：早稲田大学史資料センター非常勤嘱託、2024年～現在に至る：高崎商科大学専任講師
担当科目	道德教育指導論、教育原理、学校の制度、教育課程論、教育実習（事前指導）、教育実習、学びの技法
専 門	中・高等教育史（日本教育史）/大学教育・研究の質・保証史研究/大学における研究と道德の関係史
主要業績	2016年単著「大学「昇格」による仏教系私学の教育目的・学部組織の変化 ―駒澤大学を事例として―」『関東教育学会紀要』第43号 2017年単著「大学令下における仏教系私学の連合大学設立に関する考察 ―教育目的・学部組織の変化に着目して―」『早稲田教育評論』第31巻1号 2020年「日本の江戸時代の教育」安彦忠彦/藤井千春/田中博之編著『新版 よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房 2020年単著「大正期における神道系私学の大学「昇格」に関する一考察 ―国学院大学の教育方針・学科組織の変化に着目して―」『関東教育学会紀要』第46号 2022年共著「新制中学校の成立に関する実証的研究 ―戦後教育の諸原則の確立と展開を中心に―」『早稲田教育評論』第36号-1 2023年単著「新制中学校の教育課程における教科外活動についての一考察 ―特別活動と他領域との関係を中心に―」『早稲田大学教育学会紀要』第24号 2023年単著「1950年代の新制中学校における特別教育活動に関する一考察 ―千葉県山武郡組合立日源中学校の事例を中心として―」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』別冊、第31号-1 2024年単著「大正期における真言宗専門誌『六大新報』と「大学と道德」の関係にかんする実証的研究 ―関係記事傾向の検討を手がかりに―」『高崎商科大学教職研究年報 2024年度前期号』 単著「令和元～7年における主要な法律。答申が意図する「新しい教員像」に関する一考察」『高崎商科大学教職研究年報 2024年度後期号』単著「東洋大学の教育理念・方針及び学科組織・課程の変遷 ―創立から大学「昇格」までを対象として」『井上円了センター年報』第33号
社会貢献	TUC SUMMER 2024 キッズラボ 2024 に参加

下山 寿子

職名・役職名	教授
学 位	文学修士（立教大学）
略 歴	1996年～1999年立教大学文学部教育学科助手、2002年～2004年高崎商科大学専任講師、2004年～2011年同大学助教授・准教授、2011年～現在に至る 同大学教授 臨床心理士、カウンセリング心理士、ガイダンスカウンセラー
担当科目	学習・発達論、生徒・進路指導法、教職実践演習、教育実習（事前指導）、教育実習、心理学（心理と行動）、介護等体験指導、日本語リテラシーⅢ・Ⅳ、学びの技法（会計学科・経営学科）、短期大学部・心理学（生活と心理）
専 門	教育心理学、学校臨床心理学、教育心理学説史研究、近代日本教育心理学における「教育病理」の系譜と心理・教育ジャーナリズム。
主要業績	2004年共著『新臨床心理学』/共著『コラージュ療法・造形療法』 2008年共著『障害児の理解と支援』 2009年単著『近代日本教育心理学における「教育病理」の系譜と心理・教育ジャーナリズム』（科研費報告書） 2013年単著「芸術療法としてのコラージュ制作の解釈学的基礎づけに関する基礎的研究（1）－自傷行為を訴える女子学生を例として－」『高崎商科大学紀要』第28号 2015年単著「雑誌『児童研究』は「教育病理」現象をどう伝えたか（1）」『高崎商科大学紀要』第30号 2016年単著「産婆（助産婦）に見る生命尊重の専門性、論理性・自律性に関する史的考察－近代日本における準専門職形成史の研究（1）－」『高崎商科大学紀要』第31号 2017年単著「近代日本準専門職（「特別支援教員」）形成史研究（2）－教育総合雑誌『教育実習界』①何故、このメディアに着目するのか－」『高崎商科大学紀要』第32号 2020年単著「雑誌『児童研究』にみる『教育病理』『教育病理学』の意味展開に関する研究－『教育病理学』欄（1907～32年）を中心として－」/「明治後期における『教育病理』概念の移入と普及に関する基礎的研究－雑誌『児童研究』の記事（1898年11月～1907年6月）を手がかりとして－」『児童研究』（日本児童学会）第99巻 2022年単著「明治中期の雑誌『大日本教育会雑誌』にあらわれた『教育病理』情報の基本的性格に関する史的探究」『高崎商科大学紀要』第37号 2023年単著「明治中期の教師向け教育雑誌メディア『教育報知』と『教育病理』情報」『高崎商科大学紀要』第38号/「進路指導・キャリア教育における『進路情報』の意義と役割に関する研究－1886年から1899年までの刊行の『進学案内書』に見る『障がいを負う児童・生徒の学校選択情報－』」『TUC高崎商科大学教職課程年報（『TUC教職課程授業づくり省察集』合併号）』 2024年共著「日本近代『学習指導案』の形式起源の再整理と未来の『教科・科目』『特活』・『総合的な探究の時間』のその形式に関する試論的研究」『2023年度 高崎商科大学教職研究年報（前期号）』/単著「近現代日本における『異常児（童）』と

	生徒指導に関する言説的研究」『2024年度 高崎商科大学教職研究年報（前期号）』 / 共著「2017年11月以降刊行の教職課程テキストシリーズの編集方針と『教育心理学』『学習・発達論』の書誌的検討に関する考察」『2023年度 高崎商科大学教職研究年報（後期号）』 / 単著「千葉教育会雑誌/千葉教育雑誌における『教育病理』『教育病理学』記事の内容分析－1884年（明治17）～1912年（明治45）を対象として－」『高崎商科大学紀要』第39号
社会貢献	ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク会員（群馬大学男女共同参画推進室主催） 藤岡市教育委員会事務点検評価委員（藤岡市教育委員会）

菅原 亮芳

職名・役職名	教授
学 位	博士（教育学）（九州大学）
略 歴	1991～2002年財団法人日本私学教育研究所・主任研究員（教育課程、初任者研修等担当専門研究員）、2002～2024年 高崎商科大学教授、2024年～現在に至る 高崎商科大学特任教授
担当科目	教職論、教職実践演習、「総合的な探究の時間」の指導法、職業指導（経営学科・会計学科）
専 門	教育学・教育史。近代日本における青年の「学び」の構造史、近代日本教育情報史研究。
主要業績	1987～93年共編著『近代日本教育関係雑誌目次集成』（全85巻） 1993年共著『近代日本における知の配分と国民統合』 1997年共著『「文検」の研究』 2003年共著『「文検」試験問題の研究』 2008年単独編『受験・進学・学校』 2013年単著『近代日本における学校選択情報－雑誌メディアは何を伝えたか』 2016年単著「準専門職の基本的特徴と日本の教員の専門職論の系譜・序説－先行研究の紹介と整理を通して－」『高崎商科大学紀要』第31号 2017年単著「『一橋専門部教員養成所史』にあらわれた商業教員の専門職化過程に関する小考（1）」『高崎商科大学紀要』第32号 2022年単著「明治期の『千葉県教育会雑誌／千葉教育雑誌』に見る『教育病理』『教育病理学』記事の所載傾向とその変化」『高崎商科大学紀要』第37号 2023年単著「明治期『宮城県私立教育会雑誌・宮城教育雑誌・宮城県教育雑誌・宮城県教育会雑誌』に見る『教育病理』記事傾向とその基本的特質に関する実証的研究」『高崎商科大学紀要』第38号/「未来の高校教員を育てる高崎商科大学教職課程のケーススタディに向けての一試論」『TUC高崎商科大学教職課程年報（『TUC教職課程年報授業づくり省察集』合併号） 2024年共著「日本近代『学習指導案』の形式起源の再整理と未来の『教科・科目』『特活』・『総合的な探究の時間』のその形式に関する試論的研究」『2023年度 高崎商科大学教職研究年報（前期号）』/「日本の高校『総合的な探究の時間』の『目標・内容』・教育課程上の位置づけと『教師の先行研究批判的検討力育成』に関する言説的研究」『2023年度 高崎商科大学教職研究年報（後期号）』/「明治期における『愛知教育会雑誌』／『大日本教育会愛知部会雑誌』／『愛知教育会雑誌』／『愛知教育雑誌』に見る『教育病理』『教育病理学』記事の掲載傾向の特色－千葉県と宮城県との比較を通して－」『2024年度 高崎商科大学教職研究年報（前期号）』/「高崎市学事一覧（表） 高崎市（1924、1928～1933、1936～1938各年度）と高崎市所在『私立裁縫学校』－先行研究に学びながら－」『高崎商科大学紀要』第39号
特任事項	高崎商科大学120周年記念誌編集委員会（編集担当）